

第1回(平成24年度第1回)カムイワッカ部会議事録

実施日時:平成25年3月26日(火) 10:00 - 12:00

実施場所:斜里町公民館 ゆめホール知床 第一会議室

議事次第

- (1) カムイワッカ部会の設置について
- (2) 平成24年度事業の実施状況報告・モニタリング結果報告
- (3) 平成25年度計画について
- (4) その他

議事概要

進行:斜里町環境課 岡田課長

(1) カムイワッカ部会の設置について

冒頭に環境省中山次長より開会のあいさつ

カムイワッカ部会の立ち上げと設置要領について、資料1、参考資料1-1、1-2を内容に沿って事務局(環境省 野川自然保護官)が説明。

カムイワッカ部会は、適正利用・エコツーリズム検討会議を親組織とし、地域別の課題を検討する部会として設置。従来、別々の場で議論されてきたマイカー規制、カムイワッカ湯の沢の利用、道道の特例使用制度等のカムイワッカ地区に関する諸課題について、全体を束ねた検討の場を新たに設置することになる。有識者については、特定の専門家に委嘱せず、必要な専門分野に応じてその都度招聘することとしたい。また、羅臼湖部会等と同様に座長は置かず、事務局が課題に応じて構成団体を召集し、議事進行していく運営を想定している。

質疑応答

環境省(野川):構成団体に知床ガイド協議会を加えるべき、という提案が事前に事務局にあった。この件について承認頂けるか。

一同:承認

知床自然保護協会(遠山):道路利用に関する当部会の取り扱い範囲を確認したい。幌別ゲートからカムイワッカに至る道道知床公園線の利用のあり方全般を対象とするのか。もしくは、車両規制が実施されている五湖ゲートからカムイワッカ間に限定するのか。

環境省(野川):車両規制の実施区間のみでなく、幌別ゲート以奥における自動車利用の適正化についての課題は本部会で取り扱う。

進行(岡田):異議なければ、適正利用・エコツーリズム検討会議の下に個別部会としてカムイワッカ部会が本日から設置されるがよろしいか。

一同:承認

(2) 平成24年度事業の実施状況報告・モニタリング結果報告

本年度のマイカー規制の実施状況について、資料2-1を内容に従い事務局(環境省 野川自然保護官)が報告。

カムイワッカおよび知床五湖駐車場の渋滞予測のシミュレーション結果について、北海道大学愛甲准教授より資料2-2に従い報告。

質疑応答

知床財団(寺山):参考資料2-1の5頁において、各地点の利用者数に係数を乗じて利用者数の予測を行っているが、係数の値について教えてほしい。

環境省(野川):道の駅の利用者数に対する五湖来園者数の比は概ね一定であり、そこから係数が求められる。また、知床五湖の利用者の何割がカムイワッカ地区を同時に利用するのか、といった選択率についても、五湖地区の駐車場台数とカムイワッカ林道への車両カウント数との比率が相關することから推定できる。詳細は、釧路自然環境事務所が実施した「平成24年度知床国立公園知床五湖・カムイワッカ地区自動車利用動態解析業務」で報告されている。後日知床データセンターに掲載するので参照してほしい。

なお、五湖地区利用者におけるカムイワッカ地区の選択率は昨年度より上昇している。その理由として、カムイワッカ地区へのアクセスについて認知度が上昇した点、知床五湖の地上遊歩道の長期閉鎖が発生した点が考えられる。選択率は年変動が大きく、数年間モニタリングする必要がある。

知床財団(寺山):選択率の変動は情報提供の影響が大きいと考えられる。情報提供の手法とともに検討していく必要がある。

斜里山岳会(滝澤):硫黄山登山者の駐車方法は、日帰り登山か縦走登山かで大きく2パターンに分かれ、駐車時間にも違いがある。縦走登山者は事前に車両をカムイワッカへ駐車しに来ることから一泊二日の縦走登山でも最低3日間、二泊三日ならば4日間駐車することとなり、駐車場所を長時間占有してしまう。今後縦走登山者の駐車場所をどうするかが課題である。日帰り利用者と駐車場所を分けることで問題解決できる可能性がある。登山者の行程や目的地については把握しているか。

環境省(野川):ウトロ自然保護官事務所としても、混雑日には、現場で登山者による車両駐車台数を確認している。シーズンで最も混雑した7月15日には、湯の沢の駐車スペースで登山者の車両が11台確認されたが、そのほか5台ほどが湯の沢駐車スペースではなくカーブミラーNo.5付近に駐車していた。このように湯の沢駐車帯から少し離れた場所に登山客が駐車すれば、渋滞緩和に効果的と考える。なお、この3連休において登山者の駐車車両ごとの登山行程については把握していない。新噴火口までの往復登山者だとしても4時間程度の駐車が想定され、30分程度の利用である一般の湯の沢利用者の8倍の滞在時間であり、登山客の駐車場所についてはこれから検

討が必要である。

斜里山岳会(滝澤): 歩ける距離であれば、登山者の駐車場所を少し離すことについて、登山者の理解は得られるのではないか。

斜里町(岡田): 長時間駐車する人は、誘導がなくとも自発的に湯の沢駐車帯から離して駐車しているのか。

環境省(野川): 現地には、登山者専用駐車帯以外は駐車しないように、もし専用駐車帯が満車の場合は離れた場所に駐車するようにという案内掲示はあるが目立たない。具体的な場所も明示されていない。

斜里町(岡田): 案内掲示などで誘導がうまくいけば渋滞は多少緩和されるという結論かと思う。

知床財団(寺山): 現場の実感として、誘導がうまくいけば渋滞は緩和されるだろう。実際、混雑日において、登山客が荷物をゲートの近くまで車で運んだあとに湯の沢駐車帯から離れた場所に駐車した事例もあった。そのため現場への人員配置が重要である。

五湖ゲート - カムイワッカ間の道道知床公園線における交通事故発生について、斜里警察署小川課長より報告。

5件の単独物損事故が発生した(1件の事故では負傷者が発生し救急車搬送されたが、最終的に診断書は作成せず、物損扱いとなった)ほか、駐車スペースでの物損が1件あった。

事故の傾向は、夕方の発生が多く、5件すべてレンタカー、道外居住者であった。交通事故の主な原因はハンドル操作の不適(レンタカー、砂利道)で、車の特性すら理解していなかった結果である。

知床五湖 カムイワッカ間の距離および路面状況(砂利道)を考慮しても、事故率は比較的少ない印象である。ただし、最寄りの駐在所(ウトロ駐在所)から出勤したとしても現地まで約30分かかる。状況に応じては、出勤まで約一時間を要する。そのため、現場での様々な機関の協力をお願いしたい。また今回の渋滞情報等を参考にし、チラシなどを用いて事故防止啓発活動を来年度も行いたいので、協力をお願いしたい。

質疑応答: なし

道道の特例使用について、事務局(オホーツク振興局網走建設管理部管理課 藤山係長)が参考資料 2-2 の内容に従い報告。

質疑応答

斜里山岳会(滝澤): ガイド登山にあたっては、特例使用の申請書のみならず、登山計画書や入林届等、複数の書類を提出することとなる。今後、エコツーリズムの観点からも、各種手続きを一本化できるように検討をお願いしたい。

カムイワッカ湯の沢の利用状況について、事務局(斜里町役場商工観光課 伊藤係長)が資料 2-1、参考資料 2-3 の内容に従い報告。

カムイワッカ湯の沢の雨量観測および岩塊の崩落、浸食状況のモニタリング調査結果について、北見工業大学伊藤准教授が資料 2-3 の内容に従いパワーポイントを用いて報告。

質疑応答

知床財団(寺山): 一の滝の規制ラインまで遡行してきた利用者数は把握しているか。滝の中を歩く体験を選ぶ人の選択率が議論できるのではないかと思うので、もしデータがあれば今後の協議の場に出して頂きたい。

斜里町(阿部): 常駐監視員配置期間においては、規制線を突破した人数の把握は行っているが、一の滝まで遡行してきた利用者数のカウントはしてはいない。立ち入り規制線到達人数までは把握していない。今後、そうした情報の必要性も含めて検討したい。

斜里山岳会(滝澤): 伊藤准教授の発表において、「規制線を突破して湯の沢の上部に登山者が登っている」旨の発言があったが、カムイワッカ湯の沢は登山ルートとしては一般的でない。新噴火口に抜けるのも困難。

ただし、カムイワッカ湯の沢をバリエーション的な沢登りのルートとして取り扱う、という観点での議論はあり得る。その際には、登山者と一般的な湯の沢利用者とは当然、安全意識やレベルに差があるので線引きが必要となるだろう。将来的な課題として提起したい。

(3) 平成25年度計画について

カムイワッカ地区自動車利用適正化対策について事務局(環境省 野川自然保護官)が資料 3 に従い内容を説明。

道道特例使用(硫黄山登山口の利用)について、事務局(オホーツク振興局網走建設管理部管理課 工藤課長)より補足説明。平成 26 年度より現地管理員の配置予定はないため、道道特例使用申請の事前申請の徹底を周知したい。ただし、平成 26 年度も現地に申請記載台と投函箱は設置する予定であり、無人の当日受付も可能とする予定。

カムイワッカ湯の沢の利用について、事務局(網走南部森林管理署 栗谷川流域管理調整官)より補足説明。開放エリア等については本年度と同様の取扱いを想定。現地の管理体制については、今後関係機関で協議した上で決定したい。

質疑応答

知床財団(寺山): 車両規制のあり方については期間等の見直しを検討し、平成 26 年より次期計画をスタートさせる、との説明があったが、その検討はどの場で協議するのか。エコツーリズム・適正利用検討会議か、当部会か、作業部会か。また、議論のスケジュール等についての予定は決まっ

ているか。

環境省(野川):資料1を用いて説明。車両規制の見直しは、当部会において議論し、次期計画を検討していく。カムイワッカの自動車利用適正化対策連絡協議会は当部会での決定事項を実行する場であり、エコツーリズム検討会議に対しては、当部会での決定事項を報告する場と位置付けている。

知床財団(寺山):カムイワッカ部会の開催スケジュールや頻度について決まっている点があれば知らせていただきたい。

環境省(野川):マイカー規制は、道路交通法の規制を利用するので公安委員会への申請が必要であり、その申請の期日をもて進めていく。

知床財団(寺山):制度の変更に際しては、早めに決定しなければ現場が混乱する恐れがある。制度の周知といった観点からも次期計画策定のスケジュールの設定をお願いしたい。

知床温泉旅館組合(佐々木):次期計画の決定時期の見直しをお知らせいただきたい。実施の半年前には概要が決定している必要がある。

斜里町(岡田):半年前に決定というスケジュールならば、年内に決定する必要がある。

知床斜里町観光協会(松田):カムイワッカ部会の位置づけについて再度確認したい。今後部会の中で、「幌別以奥の自動車利用適正化対策」、「カムイワッカ湯の沢の利用」、「カムイワッカ～硫黄山登山口の道路利用」の3つの事業そのものについて報告、議論をするのか。それともカムイワッカ地区の利用のあり方について、新たな提案を受けて議論する場なのか。

環境省(野川):資料1を用いて説明。「幌別以奥の自動車利用適正化対策」、「カムイワッカ湯の沢の利用」、「カムイワッカ～硫黄山登山口の道路利用」は相互に関係しあい、連携した施策が必要である。そのために設置された部会と認識していただきたい。それぞれ決まったことをそれぞれの実施主体で行っていただく。カムイワッカ部会で決まったことは、必ずエコツー検討会議の場で情報共有していくという形になる。

(4) その他

環境省野川より餌やり禁止キャンペーンのロゴマークについて説明。詳細について、知床斜里町観光協会松田より説明。

ロゴマークマグネットを車に貼る、知床峠開通に合わせてチラシを配布するなどして餌やり禁止を訴えていく予定。今後の具体的な事業については環境省や斜里町と詰めていく。皆さんにはぜひご協力いただきたい。

知床森林センター南センター長より、4月1日より国有林野の一般会計化に伴い、知床森林センターが知床森林生態系保全センターに移行する旨の説明が行われた。

【次回開催予定】

マイカー規制協議会后。5月下旬～6月頃